

焼津のことを語れる若い世代を育てたい

「ちよつくら焼津」のみなさん

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。
今回は、市民活動団体「ちよつくら焼津」の皆さんにお話を伺いました。

「ちよつくら焼津」の活動について教えて！

メンバーは木目込み作家、神主、僧侶、エステティシャン、経営者、画家、保育士など計12名で様々な人が集まって活動しています。今年で活動を始めて5年目になります。令和5年度は市の市民公益活動事業費補助金を受けさせていたいただきました。主な活動内容は、クイズ形式で分かりやすく焼津を紹介する「焼津やってGO！ドリル」の冊子の作成・配布。また、「焼津の昔話の紙芝居」を、市のユースボランティア（学生ボランティア）や、市内の小中高校と協

力しながら企画・作成を行い、読み聞かせを保育園やデイサービスで行っています。紙芝居を学生達が演じて、DVDに収録したこともあります。他にも、国際交流のために焼津に来てくださるモンゴルの学生の方たちに、日本とモンゴルを産業面や文化面で比較する紙芝居を作り、読み聞かせを行ったこともあります。



焼津とモンゴルの交流をテーマにした紙芝居

活動のきっかけは？

一番は焼津のことを語れる若い世代を育てていきたいからです。例えば、焼津から東京に行った大学生に、「焼津はどういうところ？」と聞いたとしても、多くの人は「魚が美味しい」とか、「何も無い」といった答えが返ってくるのではないかと思います。そうではなくて、「他市には無い魅力



焼津水産高校での活動の様子

がこんなにいっぱいある市なんだよ」って、言えるような若者を育てていきたいです。

紙芝居は、以前から幼稚園、小学校の子どもに焼津のことを知ってもらうツールが何かあればと思う中で、それだったら内容は難しくないで、紙芝居にすれば良いのではないかと思い制作を始めました。



幼稚園での紙芝居読み聞かせの様子

「焼津やっぺGO!ドリル」について詳しく〜

クイズ形式で焼津の魅力を紹介するドリルで、今年の初めに第4弾を発行しました。海外からの観

光客にも楽しんでいただけるよう、新たに英語訳と日本文化の豆知識を盛り込みました。この第4弾については、個人的にご連絡をいただき、大富中学校の1年生へ、焼津のことを知りながら英語を覚えられる教材として配布をさせていただきました。このような形で活用をしていただくことは、活動のやりがいにもつながりますし、非常にありがたいです。

今回で第4弾となりますが、様々なことを調べ、クイズを考える過程で、初めて知り、驚いたこともありました。堅苦しいと読まれないかもしれないと思い、内容は誰でも分かりやすいようにしました。

今後の目標は？

「焼津やっぺGO!ドリル」をより多くの人に利用していただくのが私たちの目標であり、目的でもあります。市内の公共施設に配架したり、「はたちのつどい」の帰省イベントの際に配布したりなど、子どもたちに行き届くようア

ピールをしています。市がこの活動にもっと協力をしていただきたいという気持ちがあります。

今後の目標として、焼津にまつわるクイズをテスト形式にして、「焼津博士検定」のようなものをやりたいです。他市の事例だと、成績優秀者はハンコやバッジなどの景品が貰えるといったのがあったりするので、そういったものをぜひ市の方で用意していただけるとありがたいです。



インタビューの様子
左から古谷さん、深田議員、河合議員

行政や議会に期待することは？

免許を返納した高齢者の交通手段が乏しく、特に大井川地区の人

はバスの本数や行先について、利便性があまり良くないと思います。また、シニアカーが車道の真ん中を走っていたりして危ないので、何かルールを決めていただきたいと思っています。若い世代向けの施策は充実している印象ですが、高齢者向けの施策として、こういったところも考えていただければと思います。

インタビューに

答えてくれた皆さん

会長	なかしま 直子さん
副会長	しばた 亜弓さん
会員	ふるや 光子さん

今回ご紹介した「焼津やっぺGO!ドリル」は、ちよつくら焼津さんのHP（左記二次元コード）で公開しているほか、各地域交流センターや観光協会などで配布しています。

